

## 市長行政報告

今回の定例市議会から行政報告といたしまして、前回の定例市議会以降の市政の主な事業等の進捗状況などについて、報告をさせていただくことといたしました。これは、私の公約にも掲げておりました、市政の「見える化」を実現する一つでもあります。

その「見える化」であります。6月1日から新しい新見市ホームページを公開しております。観光情報や移住・定住情報などの主要コンテンツに効果的に誘導できるようにしたほか、観光情報では英語、中国語、韓国語にも対応しております。さらに、これまで以上に、新見市の財政状況等を分かりやすく掲載するとともに、本年1月から、「市長の部屋」の中に、「市長活動アルバム」を加えたことや、スマートフォンなどのモバイル端末にも対応するなど、より多くの情報を積極的に発信し、市民の皆さんと、共有してまいりたいと考えております。

人口減少問題につきましては、5月30日に、人口減少問題対策会議を開催し、平成28年度の取組状況等を報告させていただきましたが、市内への移住者が247人と目標をクリアし、人口の社会動態では、本年3月末時点で、転出超過とはなっておりますが、超過数はここ3年で目に見えて改善されるなど、これまで行ってきた各種施策が実を結び始めているとの感を持っております。引き続き、人口減少問題を克服し、持続的発展を実現するため、積極的に取り組んでまいります。

本年4月から、地域づくりに関する相談や、まちづくり懇談会の開催、NPO等の団体設立の支援、地域課題解決に向けての各種支援等を行い、市民の皆さんと協働しながら地域づくりを行うための窓口として、「協働推進課」を設置いたしました。市民の皆さんと一緒に、市政を推進してまいりたいと考えております。

それでは、新見市第2次総合振興計画に掲げております基本目標ごとに、その主要な事業についてご報告させていただきます。

まず、「あたたかい福祉のまち」についてであります。市内医療機関の看護師雇用支援策として、看護学生に対する奨学支援金給付事業を実施しております。この制度により、昨年度までに6名が、また、本年度4名が市内医療機関に就職しており、看護師不足の解消に向け一定の成果をあげるとともに、定住促進に寄与しているものと考えております。

また、政府の未来投資会議において「未来投資戦略2017」の素案が示された中に、私が公約に掲げた健康寿命の延伸が盛り込まれております。この度、地域資源や自然環境を活用したウォーキングによる健康づくりを目指す、クアオルト健康ウォー

キング事業に取り組むこととしております。この他にも、地域住民ふれあい運動支援事業では、市内20地域へ運動指導士を派遣して介護予防に努めるなど、健康寿命の延伸に向けた様々な事業を展開しているところであります。

また、昨年6月から実施しております、にいみ24時間安全安心相談ダイヤルは、本年3月末までで620件の利用件数があり、市民の皆さんの医療、健康面における安全安心を確保するため、引き続き、積極的にご活用いただきたいと考えております。

児童福祉・子育て支援としては、市内に7か所目の認定こども園として整備した、新見南認定こども園を4月に開園しており、今後も保育環境の充実に努めてまいります。

障がいをお持ちの方や、保護者への支援として、今年度、臨床心理士1名を正規に採用し、発達障害者支援コーディネーターとともに、学校、認定こども園、保育所等への巡回訪問や、「ほほえみ広場にいみ」での相談業務を行うなど、体制を充実させたところであります。

次に、「はばたく産業のまち」についてであります。平成27年にワイン特区の認定を受け、A級グルメとして、さらなるブランド化やワインの増産を図るため、本年度から、ワイン用ぶどう苗木の購入経費を助成する、支援制度を創設いたしました。地元産のワインが、全国に広まっていくことを期待しているところであります。

また、ブドウやトマト栽培などの新規就農者が、平成28年度は8名あり、こうした就農希望者が自ら農地を確保することができるよう、豊永宇山地区と神郷高瀬地区に整備を進めておりました営農団地が、3月末に完成いたしました。人口減少対策の一つとしても、新規就農者の受入を、引き続き、積極的に行ってまいりたいと考えております。

平成9年から整備を進めておりました、哲西から大佐までを結ぶ広域農道も本年3月に全線が開通し、農産物の流通合理化や生活道路として市民生活の向上に大きな効果を発揮しております。

また、11年ぶりとなる産業フェアを11月18日に開催する予定であり、現在、実行委員会においてイベント内容を検討しておりますが、市内の様々な企業による事業内容の紹介及び取扱商品・製品などの展示販売により、企業同士のビジネスマッチングを図るなどの産業振興や、小中学生、高校生、大学生に地元企業をPRし、地元就労意識の向上を大きな柱としており、これをきっかけに多くの学生が本市に残っていただくことを期待しているところであります。

雇用の創出では、5月1日から商工観光課内に、IJUターン就職相談窓口を開設し、常駐の専門職員を配置して、相談業務や企業訪問を行うとともに、市内の求人情報や就職相談会の情報などをメールマガジンで配信しており、5月の実績は、相談2件、企業訪問52件の状況で、本市への就職支援に多大な効果があるものと考えております。

次に「ゆたかな文化のまち」についてであります。4月1日に開館いたしました新見市立中央図書館は、5月末までの2か月間で昨年同期の約8倍にあたる3万9千人を超える方にご来館いただきました。特に、4月は、開館記念イベントとして、主に子ども向け「お楽しみ会」や「クイズラリー」を開催し、親子で来館していただける場の提供を行ったほか、新たに導入した読書通帳は、発行が670冊を超えており、これまでできなかった読書の記録が簡単にできるとして大変好評であります。こうした取組により、4月中の小学生以下の利用状況は、貸出人数、冊数ともに昨年同月の約4倍となっており、子どもたちの読書推進につながっております。

次に、本市ではICT教育に重点を置き、平成26年度から全中学生にタブレット端末を貸与してきました。さらに、市内全小中学校へ人型ロボット「ペッパー」を導入し、平成32年度からの新学習指導要領で必修化される予定のプログラミング教育を、本年度から先行して実施いたします。6月から授業を開始し、12月にはプログラミングのコンテストを開催する予定であります。

「塩から子」育成事業は、本年度、夏バージョン、冬バージョン、そして小中学校区で実施する3つのバージョンを開催する予定で、実行委員会を中心に準備を進めております。思いやりのある心豊かな人間性や社会性を育むとともに、何事にも積極的に取り組むことのできる子どもの育成を目指してまいります。

また、多様な交流の推進としては、本市への移住・定住を総合的に支援するため、旧油野小学校を活用した「新見市移住交流支援センター」を整備し、本年4月1日に開設いたしました。運営は、地域おこし協力隊員を中心に設立されたNPO法人「nimmi」（ニミー）に委託しており、移住希望者からの相談など移住者支援に取り組んでおります。

次に、「かいてきな環境のまち」についてであります。防災対策では、本年3月に新たに作成した防災マップを、4月の市報とともに各戸に配布しております。土砂災害警戒区域、土砂災害危険箇所、大雨によって高梁川が氾濫した場合に想定される浸水区域、避難所などの情報を改訂し、各種の防災情報もあわせて掲載しており、家庭や地域で日頃から危険箇所や避難経路の確認をするなど活用をお願いしたいと考えております。また、これまで以上に共助として、各地区での取組も重要となっておりますので、自主防災組織を市内全地区で結成していただけるよう働きかけてまいります。

また、市役所南庁舎は、本年4月に完成し、5月1日からは、分散しておりました健康づくり課、建設課、都市整備課、教育委員会などが移転し、市民の皆さんにとりましても、利用しやすくなったものと考えております。現在は、南庁舎前の駐車場の早期完成を目指し整備を行っております。

以上、市政運営の状況につきまして主なものをご報告いたしました。引き続き市政の推進にご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。